

令和8年度 高須地区福祉活動計画

重 点 課 題	地域のふれあいや助け合いの活動の機会を逃さず、活動につなげる
----------------	---------------------------------------

事業名	
Aブロック	①地域あいさつ運動 ②福祉懇談会 ③ハイキング大会
Bブロック	①地域あいさつ運動 ②福祉懇談会
Cブロック	①福祉懇談会 ②世代間交流事業 ③小さな助け合い運動へ協賛
Dブロック	①あいさつ啓発運動 ②世代間交流事業（ラジオ体操） ③福祉懇談会
Eブロック	①世代間健康運動（ラジオ体操） ②地区懇談会

地域の課題（背景）	
Aブロック	災害時の高齢者の自助のためには、まず自身で歩ける体が必要であり、地域での共助のためには、顔見知りであることが重要である。また、子どもたちとも声をかけあえる関係を地域全体で構築したい。
Bブロック	地域の少子高齢化により行事への参加者が減少している。
Cブロック	集まる機会が少なく、孤立化が進んでいる。住民のつながりが弱くなり、状況がつかめなない事態が進んできている。
Dブロック	若い人は福祉活動に対し関心が低い。また高齢者世帯やひとり暮らし高齢者も増加しており、自治会や近所の方による見守り活動が必要になっている。
Eブロック	子ども会の活動がなくなり、子育て世代の福祉への関心が薄れている。福祉＝高齢者のイメージが強いが、誰にでも関係があることを伝えていきたい。

推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】	
Aブロック	地域での共助（互助）のためには、顔見知りであることが重要である。子どもたちとも声をかけあえる関係を地域全体で構築したい。
Bブロック	自治会長・福祉推進委員・民生委員児童委員・他福祉関係の役員の連携協力を強化を継続する。
Cブロック	自治会長や福祉関係の役員の連携協力を強化する。困りごとを把握し、小さな助け合いにつなげる。心ある人の結集を図り、具体的事例を共有し支援する。
Dブロック	世代間交流事業や福祉活動事業への参加を呼び掛け、福祉活動に関心を持ってもらう。また自治会や福祉関係者が協力し、高齢者の見守り活動を推進する。
Eブロック	世代間交流のほか、子どもたちとのあいさつを含めた交流に心を配る。

自助(私達でできること)	
Aブロック	災害時の高齢者の自助のためには、まず自身で歩ける体が必要である。「体力作り」を目的にハイキングや歩け歩け運動などを行う。
Bブロック	自治会行事や、福祉イベントを地域の方へ参加を呼びかける。
Cブロック	隣近所や親しい人、ひとり暮らしの方への声掛け、小さなお手伝いを実践する。
Dブロック	「あいさつ運動」や「世代間交流事業」を積極的に実施し、地域の方に声かけを行う。
Eブロック	福祉活動に関心を持ち、自分ができることに参加する。近隣にも声を掛ける。

公助（行政や社協に依頼すること）	
Aブロック	円滑な福祉活動を持続するためのシステムづくりに協力、援助
Bブロック	高須地区社協の活動やセミナーなどを地域に広報をお願いしたい。
Cブロック	地区連携の推進方法の学習会、実践方法についての協力と予算面での援助
Dブロック	高齢者の困りごとや相談に対し、アドバイスと協力をお願いしたい。
Eブロック	無理のない活動を維持するためのシステムづくりに協力・助言

令和8年度 高須地区福祉活動計画

重点課題

海津小学校、自治会長、民生委員児童委員、福祉推進委員などが話し合い、高須地区としての問題や課題を見つけ出し、活動につなげる

事業名

総務部会	①組織・規約の問題点の見直し ②あいさつ運動（7月、12月） ③小さな助け合い運動 ④研修会 ⑤地域福祉活動計画の推進
防犯防災部会	①防災・減災に役立つ活動 ②交通安全運動の推進 ③防犯に関する取り組み
生活支援部会	①「広域サロン」を2回開催。事業主体の検討と話し合い。 ②将来に向け部員の育成と確保。
イベント交流部会	地域全体を対象としたイベントの計画の実行と他団体との協力
ちょボラ部会	ちょっとした助け合い（買い物などの外出支援活動の実施）

地域の課題（背景）

総務部会	①地区社協、部会、ブロックやその仕組みについてわからない人、知らない人、誤解している人が少なくない。 ②活動の内容や理由も周知されていない。
防犯防災部会	①防災・減災活動は、私たちの地域社会の未来を守るうえで最も重要な課題である。小学校での避難訓練も数年前と同様となっている。行政の長期計画も私たちの活動と関連付けが不透明になっている。各自治会の自主防災組織も休眠組織が多い状態である。 ②地域の危険箇所の把握ができていない。 ③防犯に関する課題の把握ができていない。（詐欺、盗難、窃盗、SNS犯罪、子ども、高齢者など）
生活支援部会	①地区社協、部会について、内容が認知されていない。 ②民生委員児童委員の交代があったので、協力体制が整っていない。
イベント交流部会	高須地区全体でのイベントがない。
ちょボラ部会	高齢者の移動手段の確保が大きな課題になっている。

推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】	
総務部会	民生委員児童委員、福祉推進委員、自治会長など、福祉関係推進者が話し合い、福祉の向上に努める。
防犯防災部会	①避難訓練の働きかけ、行政の方針との整合性を確認し、各自治会の防災組織の実効性も確認、各地域の防災マップの整備などを行う。児童と共に避難所開設訓練を実施して、避難者受け入れ態勢を整える手順を体験する。 ②危険箇所マップ作成、防犯パトロール、高齢者および子ども中心の防犯教育。 ③情報セキュリティなど参考情報の配布、講演会の実施。
生活支援部会	福祉関係者が集まる会合などで、話し合いを開催して、お互いに協力できるようにして行く。
イベント交流部会	それぞれの団体同士が、つながる活動の仕組みを作る。
ちょぼら部会	民生委員児童委員や自治会長、代議員と協力し、助けが必要な人の援助を行う。

自助(私達でできること)	
総務部会	定期的な話し合いの場を設ける。
防犯防災部会	自転車などに対する交通反則通知制度（青切符）の周知。
生活支援部会	部会などで意見を出し合い、活動に反映する。
イベント交流部会	所属する団体での活動を、いろいろな機会に広報する。
ちょぼら部会	定期的に会議を開催し、活動内容を共有する。

公助（行政や社協に依頼すること）	
総務部会	参考資料などの提供や適切なアドバイスをいただきたい。
防犯防災部会	避難所開設に伴う行政、社協、自治会の役割と活動内容の情報共有協議会を発足。
生活支援部会	適切なアドバイスをいただきたい。費用、会場の確保に協力していただきたい。
イベント交流部会	協力し合える、つながり合える団体の紹介（6/14輪中ミュージアムの見学会を開催予定）
ちょぼら部会	市社協の協力（福祉車両の貸し出し）など、活動へのアドバイス。